

## 救急救命訓練

サッカー元日本代表の松田直樹選手（松本山雅FC所属）が8月2日午後練習中に急性心筋梗塞で亡くなられたのは非常に衝撃的な事件でした。その場にAEDがあれば助かったかも知れないと多くの人が思われたでしょう。しかし、私たちは病院の外でこのようなケースに遭遇した時、冷静に判断して対応する心の準備が来ているのでしょうか？そんな思いから一次救急救命訓練講習を計画していたのですが、奇しくも松田選手が亡くなられた翌日であり受講者はみんな気合いが入っていました。



栄養給食科の皆さん



一次救急救命処置の説明を宮崎市北消防署東分署救急隊の救命救急士・消防士の皆様にしていただいている様子



看護師・理学療法士・介護士さん達



介護士・相談員・事務員さん達



消防士の皆さんと記念撮影

## AED操作法

1



まずは…電源オン！  
AEDの電源を入れます。  
AEDの種類によってはフタを開けると自動で電源が入る物もあります。

2



あとは音声の指示に従って…  
パッド(電極)の装着  
衣服をはだけ、何も着けていない胸にパッド(電極)を貼り付けます。

3

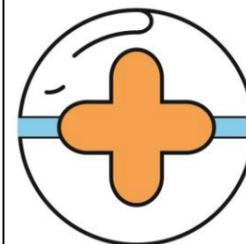


「ショックが必要です」の音声が流れたら…  
もう一度、誰も患者に触れていないことを確認します。  
「離れてください」

4



そして・・・除細動  
除細動の準備が整ったら、点滅するボタンがあるので、それを押すと除細動がされます。



# まごころ

第10号

2011年  
慈英病院  
広報誌

## 敬老会

慢性期病院では入院期間が平均6ヶ月と長いと外界とのつながりが薄くなります。入院中であっても四季の移ろいを感じ活力をもって暮らして頂きたいという思いから様々なイベントを行っています。9月11日(日)には恒例の敬老会を行いました。約1時間の中で、ご長寿の方のご紹介、病院職員やご家族の皆様による歌や踊り、演奏などを楽しんで頂きました。



病院スタッフが「バンパ踊り」「炭坑節」「銀座カンカン娘」の歌に合わせて踊りました。  
看護師さん、介護士さん、理学療法士さん、作業療法士さん、事務員さん、学生さんなど入り混じっての熱演です。



子供達にソフトボールを教えていました。  
久しぶりにユニホームを着ました。



楽譜を見ながらご家族と一緒に「ふるさと」  
「上を向いて歩こう」歌いました。

100才違いの春ばあちゃん  
私が大きくなるまで元気でいてネ  
1才の孫 愛望(まなみ)より



9月16日、デイケア室敬老会は21名の皆様にご参加頂きました。  
ボランティアの方の腹話術やマジックなどを楽しんで頂きました。

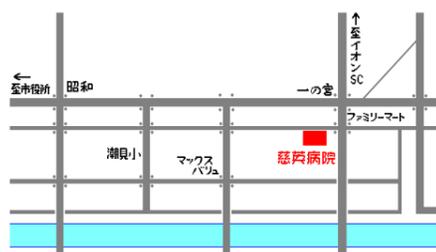


# 慈英病院

診療科目：内科・神経内科・リハビリテーション科  
〒880-0853 宮崎県中西町160番地  
TEL 0985-23-5000 FAX 0985-23-5886  
<http://www.jiei.jp> e-mail [info@jiei.jp](mailto:info@jiei.jp)

### 編集委員

江藤裕子 高瀬祐枝  
竹迫彩 富永亜津妙  
横山恵美子 黒木咲野  
清泰蔵 砂地優宏  
黒松和子 古市恵美子  
安達仁美 中野麻美  
東洋一 木村優子



## 排泄ケア研究

私達は、患者様の尊厳に重点を置いた排泄ケアを行うことを目的として、排泄ケアチームを立ち上げ更なるサービス向上のための取り組みをしています。紙おむつの重ね使いをしない。一枚のオムツですっきりと生活をして頂きたい。その為にお一人おひとりの排泄（下剤の使用状況、便の性状）を検討しました。患者様の排泄に関する辛さや苦しさを感じることができました。一枚の紙おむつを通じて、「患者様を大切に思う心」を持つことができました。少しずつですが現場が変化しています。これからも頑張っていきます。

### 患者様の尊厳に重点を置いた排泄ケア ～排泄から現場が変わる～

#### 私達（慈英病院）が目指す看護・介護

##### ◎患者様に安心を与えられる看護・介護

- 患者様を観ることができる
- 患者様を看ることができる
- 患者様の経過を予見（予測）できる
- 患者様の心を思うことができる
- 職員がやりがいを感じる事ができる



-P. 1-

#### 仮説

- ・患者様の尊厳を排泄から考えると、看護及び介護の質の向上につながる
- ・排泄をアセスメントすることで、患者様の生活の質の向上につながる
- ・排泄をアセスメントすることで、エビデンスに基づいたケアの提供ができるようになる



私達の目指す看護・介護が実現できる



-P. 2-

#### 患者様の苦痛を考えていましたか？ あなた自身はどうでしょうか？

- ・あなたは、下痢がいつも続いていますか？
- ・あなたは、下痢の時に「なぜだろう？」と心配になりませんか？
- ・あなたは、下剤を服用してお腹は痛くありませんか？
- ・あなたは、下剤を服用する時間を考えて服用していませんか？
- ・あなたは、便が下着から漏れてどんなお気持ちですか？



-P. 3-

#### できない、やれない看護・介護はない！

- ・患者様の尊厳に重点を置いた排泄ケアを行うと患者様の生活全般に目が向く
- ・看護職、介護職が協力すると個々の患者様の目標が明確になり計画的に支援ができる
- ・「どんな看護・介護がしたいのか」を明確にすると現場が変わっていく



-P. 4-

#### まとめ

##### 個々の患者様の尊厳を重視した 排泄ケアを考えると・・・

- ・患者様の生活の質が向上するのみでなく生きる意欲にもつながる
- ・職員が他の業務においても原因追究できるようになり看護・介護の質の向上につながる
- ・職員の喜び、仕事のやりがいにもつながる



-P. 5-

私達はこれからも患者様を大切に思い  
排泄ケアに取り組んでいきます



-P. 6-

## 日向の国の穏やかさ

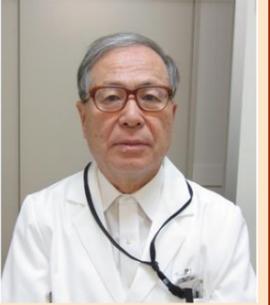
もうかれこれ7～8年前のことになります。正月に屋久島からの帰り高千穂、日向とレンタカーを走らせていました。

その年は新年そうそう全国に雪が降り、晴れているのは足摺岬と宮崎の一部位でした。ヨロヨロと（レンタカー屋さんにチェーンの用意がなかったのです）日向灘に下りてきました。突然目の前は明るくなりその日差しの暖かさは、“さすが日向の国だな”と寒い所で育った私は今でも蘇やかに思い出します。

私は昭和20年の敗戦時まだ小学生でした。300万余の尊い命の犠牲の上に私達は生きのびました。そして60年余改たな地殻変動のうねりの中にいます。資本主義はどうしても“右肩上がり”でなくてはならない様です。この事が多くの矛盾と悲劇を生みだしているように思えてなりません。生体も50歳以後は漸次減衰の一途をたどります。生体を考えます時、50歳迄の知識で物事を押し進めてきたことをこの辺で振りかえらなければとふと思います。レジデント時代の恩師日野原重明先生のご自分を実験台にした食生活など見習うのは難しそうですがひとつの道しるべかなと思ったりいたします。

幼児はかつての自分の姿であり年老いた両親は未来の自分です。まだまだこれからの若い方々にとってグローバル経済の終焉の中で、さまざまな制約と辛さに耐えながら懸命に親世代を支えケアして下さることに心より深く感謝申し上げます。

医師 飛田勝弘



## 患者様を大切に思う心

毎日、患者様ご家族様には感謝申し上げます。日々の業務におきましては、患者様に寄り添った看護・介護を目標に取り組んでいます。しかし、十分に行き届いていません。日々の振り返りの中で反省の毎日でございます。その中で、慈英病院をご利用して頂いて誠に有り難く思っております。慢性期療養の病院としての役割が年々増えて参りました。急性期病院あるいは、一般病院から早期に患者様が転院となってきています。内科、外科、整形外科の患者様、緩和ケアを要する患者様など様々でございます。その中で、個々の患者様に合った医療と介護の提供に努めています。患者様の心地よい日々の生活を提供したい。そのために患者様を観る力、知る知識と技術のみでなく、患者様を大切に思う心を職員全員が持てるように努力しているところでございます。患者様の意思を尊重した看護・介護、ご家族様の願いを感じた看護・介護を提供していきます。個々の患者様の目標を実現するためには、周辺の病院にも協力を頂きながら、患者様の安全と安心を第一に考えていきます。患者様の可能性は決して終わることはないと考えます。時間は要しますが、わずかでも表情の変化が見られた、車椅子に座れるようになった、経口から食事が摂取できるようになったなど・・・喜ばしいことがあります。患者様とご家族、職員が手を取り喜ぶ光景は何物にも代え難い私達の財産です。

ご家族様におかれましては、寒い中のご面会やお仕事帰りのご面会をして頂き、大変嬉しく感じております。

今後も、皆様のご意見やご要望を頂き、更なる看護・介護の質の向上に努めて参ります。

今後ともご協力をお願い申し上げます。



看護師長 江藤裕子